

令和六年度「社会を明るくする運動」

生駒市 小・中学校

作文コンテスト優秀作品

7月は社会を明るくする運動
強化月間・再犯防止啓発月間

生駒市社会を明るくする運動推進委員会

令和六年度 第七十四回

【社会を明るくする運動】

作文コンテスト 優秀作品

『社会を明るくする運動』は犯罪や非行の防止と立ち直りについて理解を深め、明るい地域社会を築くための全国的な運動です。この作文コンテストは、次代を担う全国の小・中学生に、日常の家庭や学校生活の中で体験してきたことを基に、犯罪・非行のない地域づくりなどについて考えたことや感じたことを作文として書くことを通じ、本運動に対する理解を深めてもらうことを目的としています。第四十三回『社会を明るくする運動』（平成五年）から始まったこの作文コンテストは、今回で三十二回目の開催となります。今年度の作文コンテストには、市内の小学校から一一四五作品、中学校から九一五作品、合わせて二〇六〇作品の提出をいただきました。この作文集は、提出作品の中から厳選し、奈良県作文コンテストへ推薦いたしました入賞作品と特別賞を掲載したものです。一人でも多くの人に作文を読んでいただければ幸いです。

生駒市は市民力が高く、多くの市民の方がお互いを見守り・支え合うことで犯罪の少ない街を実現してきました。登下校時の見守りなど、さまざまな地域活動の結果、関西において刑法犯認知件数が極めて少ない都市となっております。一方で、デジタル化が進みつつある今、人と人のつながりが希薄化し、見えない孤立などの問題が生じ、ときに犯罪や非行という形となりえることもあります。人を孤独にしない、明るい地域社会を築くためには、変わろうとする人を信じ、希望を持って見守る・感謝しあう・一人ひとりの多様性を認め、支え合うことが大切です。今後もこのようなまちづくりをみなさんとともに目指していきたいと思っています。

最後になりましたが、作文を提出するに当たって、ご指導いただきました小・中学校の先生方、また、「社会を明るくする運動」の推進委員会の方々には、多大なるご理解とお力添えを賜りましたことに、心より御礼申し上げます。

令和六年十二月吉日

生駒市社会を明るくする運動推進委員会

委員長 小 紫 雅 史

優秀賞（県作文コンテストへ推薦）

小学校の部

桜ヶ丘小学校 五年 田戸 一葉 私たちにできること

生駒南第二小学校 六年 中田 結夢 みんなの親切で社会を明るく

生駒台小学校 六年 満尾 悠人 最高の社会を作るために

中学校の部

大瀬中学校 一年 佐野 蒼太 私達の使命

緑ヶ丘中学校 二年 竹内 咲綯 「思いやり」を大切に

生駒南中学校 三年 鹿毛 優里奈 勇気と思いやり

特別賞（生駒市推薦）

あすか野小学校 五年 新野 凜 小説から教わったこと

生駒小学校 五年 井上 佑希乃 見守られる事の安全性

生駒中学校 二年 小野 衣織 手を取り合って成長する

優秀賞

小学校の部

私たちにできること

桜ヶ丘小学校 五年 田戸 一葉

「社会を明るくする運動」と、聞いてもむずかしいことばかり思いついたり、ピンとこなかったりするかもしれません。でも私たちにできる、「社会を明るくする運動」はいくつかあります。その中の二つを私はじっせんしています。一つ目は「あいさつ」です。あいさつをされていやだなと思う人は少ないと思います。そこで私は住んでいるマンションであう人や、友達にあいさつをしています。いままで私があいさつをしていやな顔をしたりむししたりした人はいませんでした。もしいきなり声を出してあいさつをするのがはづかしいな、いやだなと思う人は、えしやくをするだけでもかまいません。あいさつをすれば、みんなが笑顔になって、仲間はづれやいじめが、少し少なくなると思います。二つ目は、「言葉づかい」です。ふだん学校にいる

とたくさんさんの暴言が聞こえてきます。よく聞く暴言は、「死ね」です。私は、暴言は、使ってはいけないし、使うにしてもよく考えて使わなければいけないと思います。たとえば、「死ね」です。もしも、死ねと言っただけで相手が死んでしまったら、命はもうもどってはいかないので、とり返しをつかないことになります。たぶんふだんから死ね死ね言っている人は、はらがたって使っているのだと思います。本当はその人に、本当に死んでほしいと思っているわけではないのだと私は思います。私も「死ね」ではないけれど妹に、「ばか」「あほ」と言ってしまったことがあります。言葉を使ってしまった後に、やってしまったと思います。そして悲しくなります。暴言はだめだと思っている自分が暴言を使ってしまったことに悲しくなるのです。いきなり、この世界から暴言をなくすことができれば、すばらしいですがそれは、むずかしいかもしれません。なので私は、暴言を使ってしまったときは、相手にあやまることが重要だと思っています。暴言をなくすことでけんかがへり、けんかからいじ

めにつながるものが少なくなると思います。三つ目は、「あやまれる勇氣と許せるやさしさ」です。けんかをしてしまったとき、あやまるのがこわい、いやだ、と思うかもしれません。もし自分が許すがわで、相手があやまってこなければ、ずっと心の中で、モヤモヤし続けてしまうかもしれません。私は、あやまることはこわいこと、いやなことではないと思います。あやまれれば、相手も自分も気分がよくなると思います。けれど、ただあやまるだけでは、いけません。許せる心も大切です。でも、自分や相手がなっとくしてないときに許すことあやまることは、むりにしなくてもいいです。でも、あやまれれば、かんぺきです。なので私は「あやまれる勇氣と許せるやさしさ」を大切にしています。

ここで私が例に挙げた三つは「社会を明るくする運動」の、私たち子どもができることの、ほんの一部分です。してもしなくても、なにも変わらないだろうと思うような小さなことでも社会を明るくすることは、できると思います。ぜひ、小さなことでも、じっせん

してほしいです。

みんなの親切で社会を明るく

生駒南第二小学校 六年 中田 結夢

私は、社会を明るくするためにはみんなの思いやりや親切が必要だと思います。

私は前に、友達と公園で遊んでいました。すると、小さい子供三人を連れなお母さんがやってきました。そのときは何も気になけなかつたけど、お母さんが大きい子二人と遊んでいるとき、一番小さい子がお母さんと遊べなかつたのを見ました。私達は、その一番小さい子と遊ぼうと思い、その子と遊びました。その子が笑うと、私達まで笑えてしまうし、私達が笑うと、その子も笑ってくれました。それに、その子のお母さんが私達に、「一緒に遊んでくれてありがとう。」と言ってくれました。

私は、その子と遊べて楽しかったし、その子のお母さんに「ありがとう」と言ってもらって自然と気持ちがあがりました。友達も、笑顔になっていました。私は、親切をす

る側もされる側も自然と気持ちがあがくと思います。なぜなら、だれかに親切なことをすると、親切なことをされた人も次の機会にまた別のだれかに親切なことをするという「親切のループ」が生まれると思うからです。私はこの「親切のループ」をみんながつかないでいけば社会がより明るくなると思います。そして、「親切のループ」はいつか絶対に自分に返ってきます。反対に、友達にいやなことを言った、だれかに暴力をふるったなどの良くないことをしても、きっと自分に返ってきます。

それに私は、ほんの小さな親切でも同じくらい大切だと思います。なぜなら、自分にとっては小さなことかもしれないけど、相手の人にとっては、ものすごく嬉しかった、助かったと思ってもらっているかもしれないからです。

でも、どのようにして親切に接したらよいのでしょうか。それは難しくはないことだと思います。例えば、無理に親切に接したら相手の人は困ってしまうかもしれません。

なので、ただ普通に過ごしている中で困っている人、助けを求めている人に親切に接してあげたらよいと思います。また、学校生活の中で、下級生に優しくする、一緒に遊んであげるなどのことをしてみてもよいと思います。

私が親切に接することで大切だと思うことは二つあります。一つめは、相手への思いやりです。めんどくさそうな感じで接していると、相手の人は申し訳なくなってしまう、または、困ったり怒ったりしてしまうかもしれないです。そのような感じだと、親切とは言えないです。なので、助けてあげたい、大丈夫かな、などの思いやりをもって接すると相手の人も喜ぶと思います。二つめは、表情です。いくら思いやりをもって接していても、怒ったような表情を見せていたら、相手の人は困ったり申し訳なくなったりしてしまいます。なので、笑顔などの相手が安心する表情を見せてあげると、相手の人はとても嬉しいと思います。

前に、公園で友達と遊んでいると、坂道の下から荷物を持っしてしんどそうにしているお

ぼあさんがいました。私達は、声をかけようか迷ったけど、結局、おぼあさんは角を曲がって行ってしまいました。

私は、声をかけることができませんでした。なぜなら、声をかけたとして、おぼあさんに喜んでもらえるのだろうか、もしかしたら助けは要らないと言って怒って行ってしまおうだろうかと不安になったからです。でも、今思うと、しんどのいに助けてもらって怒る理由はないと思います。なので、勇気をもって行動することはとても大切です。

今、日本だけでなく世界のどこかで助けを求めている人が絶対にいます。私達にできることは、その人を放っておくのではなく、助けてあげることです。みんなの親切や思いやりが、世界を救うのです。

最高の社会を作るために

生駒台小学校 六年 満尾 悠人

ぼくは、社会を明るくするために感謝が必要だと思います。たとえばぼくは、ほしいおもちゃや、やりたいスポーツなどお母さんと

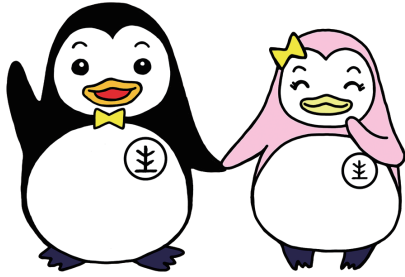
お父さんにほしいおもちゃを買ってもらったりいつもぼくを支えてくれています。そんなお母さんとお父さんに感謝することが大切だと思います。社会を明るくするにはとても大切です。なぜなら、社会を支えてくれている方々などに、日ごろの感謝をしたら感謝をするがわもうれしいし、感謝をされるがわもとてもうれしいと思います。その感謝のおかげで、社会が明るく、良い社会になると思います。

次にぼくが社会を明るくするためには、あいさつが大事だと思います。ぼくの学校でもあいさつをととても大事にしています。ぼくはいつも、歩道のところで立ってくださいってボランティアの方にあいさつをし、「いつもありがとうございます」と言っています。そうすると、自分も感謝とあいさつを伝えられて、ボランティアの方々もうれしそうにしてくれます。そのときぼくはとってもうれしいです。あいさつをすることによって、社会が一つになって、さらに明るく、より良い社会ができると思います。

次に大切だと思うのが親切です。ぼくは、社会で親切な人を何度も見てきました。えんぴつを落としたら協力してひろってくれたりこまっている人をすぐに助けたりしている人を見たことがあります。ぼくも実際に、助けてもらったことがあります。ぼくが物を置きわすれたときに、わざわざ手紙といっしょに送ってきてくれました。そのときぼくは、何て親切なんだろうと心から思いました。そのときはびっくりするほどでした。そのときぼくはこの人みたいに親切になりたいなと思いました。社会には必ずこまった人などがいます。そういう人などを助ける人、親切な人がたくさんいたら、もっと社会は明るくなり、もっとより良い社会ができると思います。

最後に、ぼくが大切だと思うのは憧れだと思います。ぼくは、いろいろな人に憧れています。社会を支えてくれている人々やお母さんお父さんや支えてくれている人がたくさんいます。ぼくはそういう人たちに憧れたらその人みたいになりたいと思います。そして社会のみんなが憧れたら、みんながその人みた

いになりたいと思います。そうするとまたそういう人が増えて、支える人が多くなります。そうすると、またどんどん増えて、いろんな人が憧れると思います。だから憧れは大切だと思います。ぼくは、野球をしていて、すごく上手なプロ野球選手や、メジャーリーガーなどに憧れています。だから憧れまくって最高の社会を作れると思います。そして、感謝、あいさつ、親切、そして憧れを意識して、最高の社会をみんなで作っていききたいです。



優秀賞

中学校の部

私達の使命

大瀬中学校 一年 佐野 蒼太

「次のニュースです。A市在住のB氏が、昨日、五歳の男の子を殺害したことが分かりました。警察は・・・」

みなさんも、一度は、このようなニュースを見たことがあるでしょう。僕は、このようなニュースを見たとき、「なぜ、こんな馬鹿なことをするのだろう。」としか、思っていないませんでした。

では、人は、なぜ犯罪を犯してしまうのでしょうか。そして、犯罪を犯した人はどのような気持ちで立ち直っていくのでしょうか。本当の答えは、本人にしか、分かりませんが、僕は、このような理由があると思います。

世界には、人生の中で、命の危機にさらされた、虐待を受けたなど、ものすごく、つらい思いをしてきた人がたくさんいます。想像してみてください。家に帰ると、親が殴って

きたり、熱湯をかけられたり、一晚中外で立たされたり、想像しただけで、心が痛いと思います。そして、そのような経験をした人、今もされている人がいます。その中でも、「自分と同じ思いをしてほしくない。」という思いで、必死に生きていく人、信用できる友人と会社を経営する人など、良い方向に向かっていく人がいます。

しかし、自分の心に限界が来て、「犯罪」の道へ、進んでしまう人もいます。でも、それは、「自分の心を守るため」という捉え方のできるのではないのでしょうか。もちろん、犯罪はいけなことです。奪われた命、人生は、もとはに戻りません。犯罪を犯してしまった人も、数々のものを失ってしまいます。罪を償っても、すべてが許されるわけではありません。でも、また新しい生き方ができるかもしれないという、「希望」は見えてきます。自分を認めてくれる人に出会うかもしれません。そして、前を向いて歩んでいくことができるかもしれません。

一つ、勘違いしてはいけないのは、犯罪者

が、すべて、このような生い立ちではないという事です。前述の通り、良い方向に歩んだ人も、大勢います。なので、つらい人生を送っていた人は、みな犯罪者になるという考え方は、絶対にしてはいけません。

では、あなたは、「認めてあげる人」になれますか。正直、「前科者はちよつと。」と思う人も多いと思います。僕も、初めは、そう思ってしまうと思います。人は、人の外見だけで判断しがちです。もとは犯罪者でも、今は、真つ直ぐに生きようと思っている人がほとんどです。なので、自分との違いを認めて、共に生きることが大切だと、僕は思います。一人では不安だと思ふなら、友達や家族がいます。心を通わせた仲間なら、共に、理想の社会に近づけることでしょう。だからこそ、友達と仲良くする。外国の人と交流し、様々な文化を知る。そして、それぞれの思いを正直に言える、違いを認め合える仲間になることが、今、私達がしなければならいことと、私達に与えられた使命なのではないでしょうか。そして、私達がしたことは、決して

て無駄にはならない。無駄にはさせない。私達が大人になったとき、大きな力となる。そして、偏見や差別のない社会に近づく、大きな一歩になると、僕は信じています。

「思いやり」を大切に

緑ヶ丘中学校 二年 竹内 咲絢

私は、犯罪や非行がないだけの社会では、「明るい社会」とは言えないと思います。犯罪や非行がないことに加え、笑顔があふれる社会が「明るい社会」だと思います。

突然ですが、みなさんは周りの人々のことを思いやることができますか。周りの人々とは、家族や友達、地域の人や地方の人さらには、ただすれ違っただけの人や、大きく見ると世界中の人のことをいいます。私は周りの人々を思いやり理解することができれば、犯罪や非行を行う人を少なくすることができます。そこから笑顔が増えていくと思います。そうすれば、私が思う「明るい社会」に少しでも近づけると考えたのです。しかし、周りの人々をしつかりと思いやれている人は一握

りほどしかない私は思っています。また、自分は周りを思いやれていると思ひ込んでいだけで、実はできていない人も多くいると思います。私は今のこの現状から私たちにできることは何か、私の体験をふまえて考えてみました。

私は、犯罪や非行をなくし笑顔を増やすためには、「周りをしつかりと見ること」、「あいさつをすること」、そして「自分のこと、相手のことを理解すること」の三つのことを並行して行うことが大切だと考えました。

まず一つ目の、「周りをしつかりと見ること」では、犯罪や非行を減らす第一歩になるのではないかと考えました。なぜなら、周りの変化にいち早く気づくことができるからです。周りの変化に気づけると、犯罪や非行が行われる前に気づき防ぐことができます。また、困っている人を見つけ、手助けすることもできます。私が見て感心したことなのですが、人の多い電車に乗っていたとき、私の近くに親子連れがいて、その子供たちが疲れた様子で立っていました。私は特に何も感じ

なかったのですが、その子供達の前あたりに座っていた男の人が立ち、「どうぞ座ってください」と席を譲ったのです。その人はとても大きな荷物を持っていたので、自分も座っていたと思うはずなのに周りを見て困っている人を見つけ、自分にできることをしていました。その男の人も親子も笑顔になっていました。周りをしっかりと見ることで、犯罪や非行を防ぐだけでなく、困っている人を助け人々を自然と笑顔にすることもできるのです。

二つ目の、「あいさつをすること」は、人々が気持ちよく生活するために必要不可欠なものだと思います。私は、あいさつは人々を明るくすることができると思います。また、あいさつをすることで人間関係が広がり、人との交流が増えることで、三つ目の「自分のこと、相手のことを理解すること」を行うことができると考えました。私は、あいさつとは「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」という時間ごとに決まって声をかけるものだけでなく、「ありがとう」や「ごめんなさい」

などの感謝や謝罪の気持ちを伝えるものなのとも言います。私が体験したことなのですが、家族で東京へ旅行に行ったとき、人にぶつかってしまい、「すみません」と謝ったのにぶつかった相手は無視して行っていました。その人はもしかしたらぶつかったことに気づいていなかったのかもしれないし、人が多すぎてぶつかることに慣れてしまっていたのかもしれませんが、私は無視されたのであまり気持ちはよくありませんでした。このときも双方がお互いに謝っていたら、無視されるよりも少しは気持ちがよくなっていたと思います。このように謝るだけでなく、近所の人に「おはよう」とあいさつをしたり、友達に助けてもらって「ありがとう」ということにより、人々を笑顔にすることができると思いました。

そして三つ目の、「自分のこと、相手のことを理解すること」は、相手を思いやるために必要なことだと考えました。相手のことを理解していなかったらどう思いやれば良いかわからないし、そもそも自分を理解できてい

なかったら相手の考えを理解しづらいと思います。わかりにくいと思った人は、まず家族のことを理解することから始めてみてはどうでしょうか。友達や近所の人よりも家族のほうが相手を理解しやすく、思いやりを持てると思います。私の家族も、言い合いはよくありますが、相手のことを理解するために、家族みんなが学校のことや仕事のことにについて、毎日楽しく話しています。

このように、私達がこの三つのことを意識することで、犯罪や非行を減らし、人々の笑顔を増やすことができる第一歩となります。私は今回考えたことから、もっと相手を意識しようと思いました。今回挙げた三つのことは、全て相手を意識することで行えます。また、初めのうちは三つのことを意識して行いますが、最終的には意識せず、自然と行えるようになりたいです。そして、思いやりあふれる社会に少しでも近づけるといいなと思いました。



勇気と思いやり

生駒南中学校 三年 鹿毛 優里奈

この世界のすべての人が犯罪や非行に対して、理解を深め合うことができればどれほど平和になるだろうか。そして、それぞれの立場において、力を合わせて犯罪や非行をしてしまった人への居場所の提供や支援がどれほど立ち直ろうとしている人の支えになるのだろうか。私はこの作文を書くにあたって、考えるきっかけとなった。

テレビをつけると、毎日様々なニュースが報道されている。嬉しいニュースもあれば、反対に悲しいニュースも報道される。事件や事故で怪我を負った、亡くなった。そんなニュースを聞くと私は悲しい気持ちになると同時に、なぜそのような出来事が起きてしまったのか、その人にはどのような事情があったのか考えることがある。

特に今の時代、SNSが普及したことによって犯罪や非行をしてしまった人への視線はどのように向けられているだろうか。私がよく目にするのは、「消えろ」や「クズ」な

どといった暴言である。犯罪を犯してしまった人の本当の気持ちは本人にしか分からない。誰もその人になることはできないし、その人の本当の気持ちを知ることなんてできない。にも関わらず、なぜ多くの人々は彼らを知っているかのように振る舞い、暴言を吐くことができるのだろうか。それは、表面的な情報だけで判断し、深く考えようとしなかったらだ。私たちはこの現実を重く受けとめなければならぬ。テレビで報道されていることを鵜呑みにして、勝手な憶測やとっさの感情でその人のことを分かったつもりになって暴言を吐いている。この人たちがやっていることは犯罪を犯した人と変わらないくらい悪である。このことをちゃんと理解して、無くしていかなければならない。言葉の暴力は人を精神的に追い詰めるだけでなく、地域や社会に居づらくさせることに発展してしまう。そして犯罪を犯した人が戻ってこられる場所を少しずつなくしてしまっているのだ。

私はこのように犯罪を犯した人に対して暴言を吐くのではなく、正しい知識を持ち、自

分の発したたった一言に、どれほどの影響を及ぼしてしまうのかしっかりと考えてほしい。そして、その人に何があったのか知ろうとしてほしい。例えば、殺人や強盗事件が報道される際に、犯罪を犯してしまった人のイメージや様子について知る人物にインタビューしている映像が流れることがある。「大人しくて優しい子だったのに。」「こんなことをする人だとは思わなかった。」「どうしてこのようなことをしてしまったのだろう。」「などと答えているのを耳にする。このように多くの人々が一つの事件、事故について何があったのか深く考えて、理解し、犯罪を犯してしまった人をちゃんと受けとめてあげなければならぬと思う。

生まれながらにして悪い人間は存在しない。何らかの不幸な出来事や環境がよくなかったりして犯罪や非行が起きてしまう。そして、その人の本当の気持ちに気づこうとせず、表面的な情報だけにとらわれ、深く考えようとせずに判断してしまうため、この世の中から暴言などといった人を苦しめるものが

無くならない。だから、私たちが犯罪を犯してしまった人をちゃんと受けとめて、居場所の提供や支援をしてあげなければならない。

この世界のすべての人が、この勇気と思いやりを持てば、きっと多くの人が住みやすく、生きやすい社会を実現することができると思う。もちろん罪を償ったからといって、その人の罪が消えるわけではないし、これから生きるうえで一生背負っていかなければならない。そのことをちゃんと理解して、新しい人生を歩もうとしている人に手を差し伸べてあげることができないだろうか。ただ、手を差し伸べる、それだけでいい。その人にもう一人ではないこと、それを気づかせるほんの少しの思いを持つて接していきませんか。

犯罪や非行を犯した人が地域から排除されたり、孤立させるのではなく、適切な仕事、居場所をつくり、それを通じて一人ひとりが社会の一員になれることを願って。

特別賞

小説から教わったこと

あすか野小学校 五年 新野 凜

一人一人これまで歩んできた人生があつて今に至っている。そんな中、少しの感情のこじれが長年積み重なって思わぬことが発生してしまう。そのことを「希望の糸」という本を読んで気付かされたのです。

私は犯人が悪い人だと思いにくんでいました。けれど、それに至るまでの経緯や事情。思わずそうしてしまったなど、思いや気持ちがかくされていたことを知ったのです。犯人が悪いことには変わりはない。けれども、犯人の気持ちによりそいたくなる自分もいたのです。それではどうすれば良かったのか？自分なりに犯罪・非行を防止するために考えたことは二つあります。

一つは人に相談することです。人に相談して共感してもらえたり分かってもらえたりするとうれしいし、自分を客観的に見れ、今するべきことが見えてくるからです。そして、

相談窓口を使って相談することも一つの手です。私も困っていたとき、家族に相談して意見を聞いて、ホッとでき、するべきことが分かった経験があります。なので、一人で悩みかかえずに気軽に相談することが犯罪・非行を防止することにつながると思うのです。

もう一つは、助け合える思いやりあふれる町を作ることです。具体的にどうすればいいのでしょうか？例えば私の住んでいる町では「見守りボランティア」という私たちが安全に登下校できるよう見守っている方がいます。もちろんボランティアなのでお金はもらえません。でも、なぜしてくれているのか。それについて「みんなが元気にあいさつしてくれているのがうれしいから」と答えていたそうです。なので私は「いつもありがとうございます」の意味も込めてあいさつをしています。そして私以外もそうしている人が多くいるように感じます。つまりいつしか助けあっていたのです。「思いやりにふれることによってとがっている気持ちを丸くすることができ」と母は言っていました。私も氷は熱によって水に



することができるよう、思いやりはここでいう熱のような役わりがあつて、不思議な力を持つていると思うのです。そんな温かい思いやりにふれることで、犯罪・非行を防止することや、明るい社会にすることへの第一歩に近づくと思うのです。

「希望の糸」では、一人で不安に思いながら、日々犯人は過ごしていました。なので、もし犯人が窓口などに相談して一度落ちついて考えて、話し合ったらあんなことにはなつていなかっただろうし、ふだんから人の温かさにふれていれば、人を殺すまで至らなかつたと思うのです。私は、相談したり助け合えたり、思いやりがあふれる町にすることで、「犯罪・非行を0にすること」で「社会を明るくすること」の実現を心から願っています。

見守られる事の安全性

生駒小学校 五年 井上 佑希乃

私は見守られる事はあたり前だと思っていました。ですが、この前いつも見守ってくれている人が休んでいました。みなさんは見守

り隊の人や、地いきの人が休んでいて不安に思ったことはありませんか？私はよくあります。地いきの人はごみ集収の車が来たときも「こつちだよ。あぶないから。」と案内してくれました。ですがいなくなつたときは、私が小さい、一年生や二年生の子を案内してとても大変でした。なんて言葉をかければよいのかどうやってみんなに伝えるのか色々なことにまよつてけつきよくちがう見守り隊の人が来てたすけてくれました。このときに見守り隊の人たちがいないと一年生達を案内ができませんでした。ですが一番は見守り隊の人がやさしく言うとなんが笑顔で、「はい」といつて動いていたところです。見守り隊の人は、私達の笑顔と、安全を守ってくれていると思ひました。

他にも、あるときに登校中に二年生の子がこけてしまったことがありました。そのとき私はばんそうこうも持っていなくて、オロオロしていました。ですがそんなときに見守り隊の人がやさしく、「大丈夫？」と話しかけてくれました。そしてばんそうこうもわ

たしてあげていて、その子はその見守り隊の人と今とても仲良しになっています。見守り隊の人は明るくてやさしく、別に来なくてもいいとこまで見守ってくれています。この社会の大人たちがこれほど明るくやさしい人になると、とてもいい社会になると思ひます。

その中でも私が見守り隊の人たちがいないとても困つたのがちがう小さい子たちが、バラバラに、ちがう班の仲のいい所に行つてこつちの班より仲いいこの班にずっとどまつていて動かず、行く時間になつても動きませんでした。ふだんは見守り隊の人が、「行く時間だよ、ほら行つておいで。」といつてくれていました。ですが私は「行くよ。」といつても、「もう少し。」とよく断られてしまひます。これはいつもやさしく接してくれている見守り隊の信らいされている結果だと思ひます。

この結果から見守ってくれている人はけつしてあたり前にそこにいず、やさしくて私たちのためにいてくれていると理解しました。そして見守り隊の人はみんなやさしく、明る

くてよりよい社会には絶対に必要な物だと思っています。そしてこの社会の心がきずついた人たちが周りにやさしくて見守ってくれる人になってくれたらその人も照らされて周りのやさしくされている人も笑顔になると思っています。

ですがまだ心がきずついている人がいます。ですからもうどうでもよくなったりしてそして犯罪を起こしてしまいます。どんな人でもやさしくて明るく照らしてくれると、うれしいです。できるかぎりあのとときの事を反省して地いきのためにやくにたってもらいたいです。別に見守り隊でなくても、人のやくにたつこと、人を笑顔にできる仕事をしてもらいたいです。その中でおたがいを分かり合えたりできるとよりよい社会になると私は思っています。そしてできるかぎり私も明るい社会にこうけんしたいと思います。

手を取り合って成長する

生駒中学校 二年 小野 衣織

小学校に通っていた頃のことです。私の通っていた学校は、登校班があり、毎回集団

で登校していました。その中には、子どもたちだけでなく、一人の大人の人がいました。私は、誰かの親だろうと思っていました。登校班で登校することは、安全で、とても安心できる場となっていました。

ある日のことです。とある事情で、その人がいない日がありました。その時は、あたり一面に生徒たちが広がったり、うるさくしてしまったり、歩くのがとても遅くなったり、まったりと大変なことになりました。私は「ちょっと静かにしよう」とか「スピードアップしよう」など声をかけてみたりしましたが、あまり効果はありませんでした。

そんな日の翌日、その大人の方が戻ってきました。昨日のこともあったので、私は注意深く様子を見ていました。すると、その方が、「ちょっと周りの人に迷惑になってしまっているかもしれないね。少し端に寄ろうか」と優しく声をかけているのが聞こえました。そして、その生徒たちは、素直にしながらいました。初めは、「なんであの人の言う事だけきくのよ」と思っていました。

が、その時、私は気づいたのです。今までの安心安全な登校は、この人が声をかけてくれているから、成り立っているのだということ。また、昨日の私は、言い方がすこし悪かったのだ、ということを教えてもらったのです。私は感心しました。そして、今までの自分の未熟さに、恥ずかしさを覚えました。

それ以来私は、その人をよく観察し、行動を見習おうとがんばりました。ただ、少しここで疑問ができました。今ごろなのはすこし恥ずかしいですが、「いつたいこの人は誰なんだー？」と。そこで、班で親たちでLINEで会話をしていたので聞いてもらったところ、びっくりする解答が耳に飛んできました。それは、その人は、今いる班の人の親ではなく、前までいた人の親だということです。私は果然としてしまいました。今いる人の親ではなかったなんて・・・

私は次の日、がまんできなくなり、ついその人に聞いてしまいました「なんで、みんなを見守ってくれているのですか」と。私自身も、単刀直入に聞きすぎたかもしれないと少

しあせってしまいました。すんなりと答え
てくれました。「子どもたちが好きだからね。
毎日の生きがいになるんだ」と。その人の目
は、生き生きとしていて、とても活気づいて
いました。すごいなと思いました。その人が
みんなを好きだから、みんなもその人が好き
なんだなと思って。私は、もっとその人が好
きになりました。

数日が経ち、私は、その人を観察していた
おかげで、周りをよく見ることができるよう
になっていました。ある程度は。そのため、
私は、あるステキなことに気がつきました。
それは、登校する時に、もちろんあの人がい
なければ良くはなりにくい。ただ、注意（声
かけ）を私たちがしてもらっているというこ
とは、周りの人たちにもある程度迷惑をかけ
ているということである。つまり、登校時に
出会っている人にも私たちが守られているの
だということを。だってもし、出会う人が悪
い人なら、もっと怒ったり、怒鳴ったりする
はずである。でも、そういうことはせず、温
かく見守ってくれているのです。

私は、この町全体に温かさを感じました。
登校班にいてくださっている大人の人が、私
たちに、優しく怒りもせずに、見本を見せて
くれている事。それを優しく見守ってくだ
さってくれている地域の人々、みんなの心の
温かさで、まだ未熟な私たちを成長させてく
れていると思いました。私は、「みんな未熟
な時がある。だから手と手を取り合って成長
していくんだ」という感じでとても心が温か
くなりました。

この世界を良くするためには、皆さんの行
動が大切になります。私たちは未熟な時、す
こしの非行に走ってしまうかもしれません。な
ので私たちひとりひとりがそれを改め、大き
な犯罪を犯してしまわないように手を取り合
う必要があると思います。今回は登校班とい
う小さなことを取り上げましたが、その小さ
なことがみなさんの成長を大きくさせるもの
かもしれません。小さなことから、こつこつと
進めていくことが重要にもなってくるのです。

「手を取り合って成長していく」その言葉
を胸に、生活をより良いものにしていきませ

んか。



想う、
ときには
足をとめ。

誰だって、
すぐには本音を話せない。
誰だって、
すぐには希望を抱けない。
誰だって、
すぐには変わることができない。
でも、たとえ時間がかかっても、
たとえ過去にやまちがあっても、
誰かと一緒なら希望はある。
声をかけ、背中を押し、
あきらめずに寄り添い続ける。
信じて待つ人の存在は、
立ち直りへの大きな力になるだろう。

私たちの「待つ時間」は、
きっと誰かの
「変わっていく時間」。

主唱 / 法務省

犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ
第74回 社会を明るくする運動

7月は“社会を明るくする運動”強調月間・再犯防止啓発月間です。

社明 しゅめい

検索



「明るい社会を考える子供たち」へ「社会を明るくする運動」

生駒市社会を明るくする運動推進委員会

「社会を明るくする」ってどんなこと？

なんか 難しそうだな

社会って

というのは

家庭 も 学校 も 学級 も
自分のすんでいる 近所・地域も
はなれたところの地域も
新聞やテレビで出てくるところ
みんな社会です

自分が

したり、してもらったりして
気がついたこと
うれしかったこと

自分から

お手伝いとか
ボランティア（奉仕活動）とか
公園掃除 道案内など
人のために何かをして

心温かくなった

とか

あ
な
た
も
社
会
の
一
人
な
の
よ
ポ
ツ
と
心
が
温
か
く
な
る

難しくなんてないよ

ちょっと 考えてみてね

誰もが

気持ちよく

生活できる

そういう暮らしの中で
お年寄りも 小さい子も
障がいを持った人も
自分も みんなみんな

誰もが 気持ちよく生活する

ために

自分が・誰かが されて

悲しかったこと つらかったこと
などが

解決できたこと

暗い いやな気持ちになった

いじめとか 良くない行動とか
かわいそうな事とか
人に迷惑をかける行動など
一緒に考えてもらったり

解決したりして

心が軽くなった

とか

それがあなたのできる「社会を明るくする」ことなのです

あなたの周りや社会で 心が温かくなったなあと 思ったことを

何か一つのことを中心に あなたの経験や体験を通して

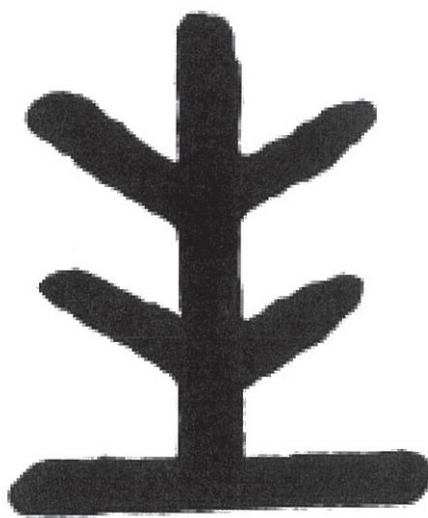
ありのままにかいて提出してください

いつも心温かい作文ありがとうございます。

「生きるマーク」について

「生きるマーク」は、更生保護制度 50 周年を記念して制作されました。

甲骨文・金文の「生」をモチーフに、樹木の芽が伸びていくように、
今、そして未来を生きていく様を表現したものです。



令和 6 年度 「社会を明るくする運動」作文コンテスト優秀作品
発行 生駒市社会を明るくする運動推進委員会

問い合わせ先

生駒市更生保護サポートセンター

〒630-0258 生駒市東新町 1-3 セラピーいこまメディカル棟 3 階

電話・FAX 0743-75-5515

令和 6 年12月